

Japanese Psychological Research 特集号

“The Construction of Culture-inclusive Approaches in Psychology”

(心理学における文化的要因を包摂したアプローチの構築)

投稿論文の募集のお知らせ

特集号の編集者:

Kwang-Kuo Hwang (黄 光國) (台湾大学) <kkhwang@ntu.edu.tw>

津田 彰 (久留米大学) <tsuda_akira@kurume-u.ac.jp>

原稿締め切り:

2015年2月28日

発行 (予定):

2016年1月 (Japanese Psychological Research Vol.58, No.1)

テーマ:

最近の世界における心理学の動向として、各地域の民族が有する伝統的な固有文化的要因がこれまで以上に意識されている。その勢いは、行動主義と認知心理学に続く、第3の波として認識されつつある。文化心理学の領域で、よく引用される「一つの心、多様な精神性」の原則を反映した「文化的要因を包摂するアプローチ」の強調である。そこで、この特集号では、一般公募の形式で、このトピックスに関する論文を広く募集することにした。

執筆者の一人として、世界中のいろいろな地域に住む人々の「幸福のカタチ」を固有文化的視点から明らかにした、フロー体験の概念で著明なポジティブ心理学者、

Mihaly Csikszentmihalyi (ミハリ・チクセントミハリ) 教授 (前シカゴ大学) に執筆を依頼し、浅川希洋志教授 (法政大学教授) との共著による **Invited Review** を予定している。

固有文化・社会心理学をはじめ健康心理学やポジティブ心理学などの領域における「文化的要因を包摂するアプローチ」に関する考察と実証的論文を歓迎する。

論文の種類：

1. Original Article

原則として、問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果、理論的考察と明確な結論をそなえた研究。新たな実験装置や解析プログラムの開発、新たな心理測定尺度の作成やデータベースの構築など、研究の遂行に有用な方法、技術およびデータに関する報告も含む（掲載時 12 ページ以内）（1 ページ当たり約 700 words, 8,400 words まで）（表題、要約、図表、引用文献を含む）。

2. Review

心理学の最近の重要テーマについて、研究状況、主要成果、問題点等を解説し、研究の意義と今後の課題を論じる（掲載時 24 ページ以内）（1 ページ当たり約 700 words, 16,800 words まで）（表題、要約、図表、引用文献を含む）。

投稿先：

公益社団法人日本心理学会 Japanese psychological Research 投稿ウェブサイト

https://jpa.bunken.org/jpa/user_logins/jp/ （投稿システム登録（ログイン）画面）

<http://www.psych.or.jp/publication/JPR.html> （日本心理学会 HP）

- ・投稿論文には、特集号への投稿論文であることを必ず明記すること。

執筆規定：

投稿に際しては、日本心理学会執筆・投稿の手びきを参照下さい。

https://jpa.bunken.org/jpa/files/author_publication_manual_jp.pdf （執筆・投稿の手びき）

<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html> （日本心理学会 HP）

https://jpa.bunken.org/jpa/files/author_manual_jp.pdf （著者マニュアル）

- ・投稿された論文については、公益社団法人日本心理学会編集委員会にて、2015年8月頃をめどに審査を終え、9月上旬までに採択を決定する予定である。

問い合わせ先：

津田 彰（久留米大学） <tsuda_akira@kurume-u.ac.jp>

公益社団法人 日本心理学会編集委員会 <jpaednew@psych.or.jp>

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-13 田村ビル

<http://www.psych.or.jp>